

今月のみことば 2016年1月

「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」

(ペテロの手紙第一 1章23節)

戦艦バウンティ号の叛乱

戦艦バウンティ号の叛乱はイギリスでは有名な史実で多くの本が書かれ、何度も映画化されているが、事件が起きたのは今から200年以上も前の1789年のことである。

バウンティ号は、カリブ海諸島の農園で働く奴隷の食糧として、タヒチのパンの木の栽培を計画し、無事その採集を終えたところであった。ところが、船員たちは楽園タヒチを去ることを拒んだ。船長の虐待への反発もそれに輪をかけた。叛乱は成功し、船長以下、士官たちを救命ボートに移らせ、バウンティ号を乗っ取ったのである。



タヒチでの夢のような生活が始まった。しかし、いつ反乱罪でつかまり処刑されるか分からない不安のため、乗組員たちは現地の女性たち、少数の男や子どもを連れて、安全な場所を探して大海原をさまよひ、ついに無人のピトケアン島を発見した。自然の恵み豊かな島で、ティーという木から酒を蒸留できることもわかった。

しかし、ほどなく「楽園」は「地獄」に変わった。乗組員は酒に酔い、女性を奪い合って殺し合いを続け、後に残ったのは二人の乗組員と女性たち、そして子どもたちだけになってしまった。

生き残りの一人、アレクサンダー・スミスは途方に暮れ、船から回収した品物の中から聖書を見つけた。字が読めなかったスミスは、年若いエドワード・ヤングから読み方を教わり、聖書を夢中で読んだ。そして罪を悔い改め、聖書の教えに従う生活を始め、日曜礼拝と祈りの時間を制定した。この島に初めて秩序が生まれたのである。(その後ヤングは病気で死亡。)

25年後、偶然近くを通りかかった英国船が島に上陸したとき、そこで見たものは、犯罪と無縁の、互いに愛しあうコミュニティーであった。犯罪者のために独房が三つ造られていたが、一度も使われることはなく、救命具置き場となっており、スミスも本国に送還されることなく、この島で平安な死を迎えたのである。

この聖書は長らくアメリカで保管されていたものの、現在はピトケアン島に戻されている。

文字通り、人を生まれ変わらせる聖書の力に改めて驚くほかはない。

